

2006年度からの 三つの新しい 教育プログラム

本学では広い視野と柔軟な発想力を備えた人材を育成するため、
2006年度より「複数専攻制度」「複数学位取得制度」
「学部・大学院5年修了プログラム」をスタートします。
総合大学の利点を生かし、学生に学びの機会を幅広く提供しようとする制度です。
文学を勉強したいが将来のためにマスコミについても学んでおきたい…、
国際社会を学ぶうちに世界経済のことがもっと知りたくなった…。
そんな学生の旺盛な向学心に、
学部・学科の壁を取り払った自由な教育システムで応えます。

高い専門性とあわせ、
幅広い分野に精通した人材育成を目指す

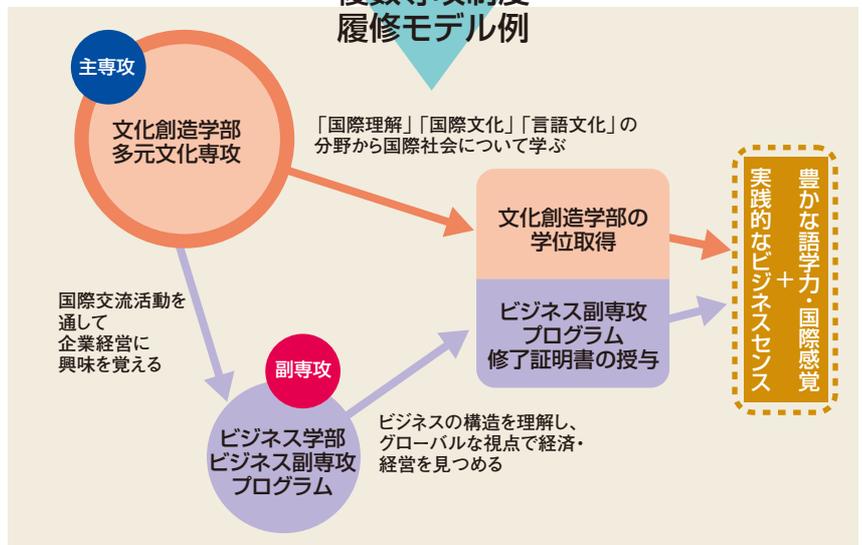
今、私達の生きている世界は、コミュニ
ケーション手段の発達やグローバル化
の進展によって労働市場や人口構成、
産業構造などが急激に変化しつつあ
ります。そのダイナミックな社会の中
にあつて、これからの文化・社会・経済
活動を支える人々には様々な能力や
知識が必要になり、大学などの高等
教育機関には高い専門性とあわせて
幅広い分野に精通した人材の育成が
求められています。
こうした社会の期待にこたえられ
るように大学教育のあり方にも変化
が求められ、意欲的な若者達に幅広
い勉強の機会を与えられるような制
度を構築する必要が生じてきました。
そこで、本学においては2006年
度から三つの新しい制度をスタートさ
せ、社会の変化に柔軟に対応し、複数
の視点から物事を理解して問題解決
を図ることが出来る人を育てるため、
学部や学科(専攻)あるいは大学院の
あいだの垣根を低くして相互に学生
が行き来できる条件を整え、それぞ
れの分野で専門教育の充実を図りな
がら、さらに幅広い知識を身につけら
れるプログラムを提供することになり
ました。
その新しい試みは次の三つの制度
を柱としています。

1 複数専攻 制度

1 複数分野を学び、複合的な視野を身に付ける
● 複数専攻制度

これは所属する学部・学科(専攻)の
カリキュラムを履修しながら、別の
学部・学科において異なった分野の専
門科目を重点的に学ぶことができる
仕組みです。つまり、社会福祉を学び
ながらビジネスも学べるとか、心理学
を学びながら建築学も学べるといった
ことです。
これまでも他学部・他学科の学生
が受講できる「開放科目」を大幅に
増やしてきましたが、新しくできた
複数専攻制度では、決められた副専
攻プログラムに沿って体系的に異分野
の勉強ができることと、決められた数
の科目を学んだ人には副専攻の「修
了証明書」が与えられるというメリッ
トがあります。
この制度は2006年度の入学生
からスタートします。

複数専攻制度 履修モデル例



2 優秀者の証、 2つの学位取得を目指す

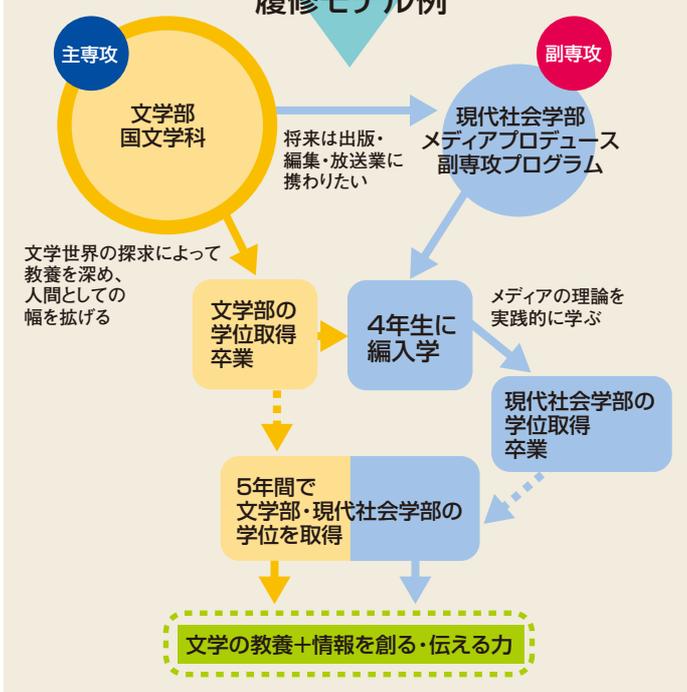
● 複数学位取得制度

複数専攻制度によって副専攻プログラムを修了できた人には、自分の学部・学科を4年で卒業したあと、副専攻の学部・学科でさらに1年間勉強を続ければ「二つ目の学位」を取得できるという制度です。

「二つ目の学位」とは、海外で「ダブルディグリー」と呼ばれているもので、これを持っていることは複数の専門分野に精通した非常に優秀な人材であることのあかしとなっています。

この制度も2006年度の入学生からスタートします。

複数学位取得制度 履修モデル例



複数学位 取得制度

2

学部・大学院 5年修了 プログラム

3

3 5年間で学部・大学院を修了できる

● 学部・大学院5年修了プログラム

これまで本学では、大学院というとても専門的な勉強をするところの授業を学部の4年生でも受講できるように「大学院の開放科目」を増やしてきました。本年度、新しくできた「学部・大学院5年修了プログラム」は、これをさらに押し進め、通常2年かかるとされる「修士課程」を1年間で修了できるようにした制度です。学部4年生の時に十分に大学院の授業科目を取って優秀な成績を上げた人は、卒業後に大学院に進学したあと1年間で残りの必要な科目を勉強すれば「修士の学位」がもらえます。

このプログラムは、もう一つあります。学部3年生までに優秀な成績を修めた人が、学部3年生から「飛び級」をして大学院に進学し、そこから2年間で修了する方法です。分野によってはこの方が大学院での勉強を充実させることができるでしょう。ただし、こちらの方法は、学部を途中でやめることになりませんから、学部を卒業しない「修士の学位を取得した」つまり「大学院を出た」という学歴のみになります。

このプログラムは、2008年度以降に3年生になる人が対象となります。

学部・大学院5年修了プログラム 履修モデル例

